



TITLE:

[全国大会報告] 日本色彩学会第 43回全国大会・京都 '12報告

AUTHOR(S):

石田, 泰一郎

CITATION:

石田, 泰一郎. [全国大会報告] 日本色彩学会第43回全国大会・京都 '12報告. 日本色彩学会誌 2012, 36(2): 141-142

ISSUE DATE:

2012-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/194132>

RIGHT:

© 日本色彩学会

全国大会報告

日本色彩学会第43回全国大会 [京都] '12 報告

Report on the 43rd Annual Meeting of the Color Science Association of Japan, Kyoto 2012

第43回全国大会実行委員長 石田 泰一郎 Taiichiro Ishida

第43回日本色彩学会全国大会が2012年5月25日～27日、京都市左京区の京都大学吉田南キャンパスを主会場として開催された。大会参加者は307名を数えた。

初日の午前に冷泉邸の見学会が行われた。海外からの講演者も含めて予定を越える80名の参加者が4つのグループに分かれ、和歌の伝統を継承する冷泉家の住宅内を、順次、見学させて頂いた。冷泉邸は現存する唯一の公家住宅であり、大変貴重な機会となった。

午後には京都大学時計台記念館にて、シンポジウム「照明新時代～色彩のサイエンスとデザイン」が開催され112名が参加された。LEDをはじめとする新光源によって幕を開けた光と色の新しい時代を迎え、色彩学の課題と可能性を議論することを目的としたものである。前半は新光源の評価方法、色の見え、ユニバーサルデザインといった色覚や色彩工学をベースにした講演が続き、後半はLEDを活用した照明技術や最新の照明デザインの事例と考え方が紹介された。これからの光と色の環境を考える上で、示唆に富んだシンポジウムになった。

研究発表は26日午前に始まり27日夕方のセッションまで密度の高いプログラムが組まれた。今回の全国大会では、従来の研究発表(口頭発表、ポスター発表)に加えて、英語による発表の国際コンファレンス、色彩デザインの事例や作品を対象とするカラーデザイン発表、さらにポスター発表にショートプレゼンテーションを設けるなど、新しい発表の形が導入された。これらの発表枠に対して研究発表に81件、カラーデザイン発表に5件、国際コンファレンスに国内外から23件、合計109件の発表が行われた。口頭発表とショートプレゼンテーションは3会場平行で進化した。参考までに各セッションの題目を列挙しておく。

【A会場】色彩文化、色彩心理、色彩の印象と効果、色彩調和と配色、色の測定と評価、色彩応用

【B会場】照明と空間の色彩、color psychology and

environment, color information and reproduction, カラーデザイン、色彩の教育と芸術、color in fashion and environment, color psychology and vision

【C会場】色の知覚と感覚、色覚、色彩と照明、色彩と景観、色彩情報処理、色覚と生理。

26日午前のセッション終了後、日本色彩学会の通常総会が開催された。事業計画、決算、予算などの議題が審議され、新しい会長、副会長、理事、支部長の役員体制が承認された。

26日午後、冷泉為久氏による特別講演「日本人の色彩 — 冷泉流歌道と年中行事を巡って—」が開催された。冷泉氏は冷泉家二十五代当主であり、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長を務めておられる。講演では歴史や古典に現れる色彩を題材として、「分節しつつも連続させている」という日本人の美意識や表現について興味深いお話を頂いた。また後半はスライドを交えて、冷泉家の年中行事について紹介して頂いた。冷泉家において日本の文化、伝統の継承を具体的な形で実践しておられる冷泉氏のお考えには、重みを感じるものがあった。

26日夕刻に京都大学に隣接した関西日仏学館で懇親会が開かれた。多くの参加者を得て、楽しく賑やかなひとときになった。懇親会の中で台湾のLee教授から全国大会への祝辞と9月に台北で開催されるAIC2012の紹介があった。また、近藤恒夫名誉会員の100歳を祝して関西支部より記念品が贈呈された。

27日午前には国際シンポジウム“Color science for our better life”が行われた。講演者は中国、韓国、台湾、タイそして日本から招待された6名である。私たちの生活環境と色彩の関わりについて深い考えを喚起されるシンポジウムになった。詳細については国際シンポジウムの報告を参照されたい。

今回、国際シンポジウムと国際コンファレンスを開催した背景には、アジアにおける色彩学の学術交流を

発展させる意図があった。大会期間中、中国、韓国、台湾、タイからの招待講演者らと日本色彩学会から新会長と国際交流委員が出席して、アジア色彩学会の設立に向けた会議が行われた。今後、アジアにおいて研究集会を開催し、学術交流を進める方向で基本的な合意が得られた。国際コンファレンスでの発表と議論を聞きながら、アジア色彩学会が有意義なものになるだろうとの意を強くした。

企業展示には7社からの出展があり、ポスター会場での展示と口頭でのプレゼンテーションを行って頂いた。企業展示についても別報告で詳細をご確認頂きたい。また、研究会特別展示として、視覚情報基礎研究会によりポスター展示がなされた。

大会期間中、総合受付の横で相馬遊楽応援団によるアクリルたわしの販売が行われた。震災後、仮設住宅への避難を余儀なくされている方々による手作りの品である。被災者支援活動への協力として、実行委員会の賛同と承認のもとに実施された企画であった。

さて、27日の夕方、全国大会は式典で締めくくられた。式典では江島義道氏、大田登氏、側垣博明氏が名

誉会員に推戴された。日本色彩学会賞は池田光男氏が受賞された。日本色彩学会論文賞はT. Kimura-Minoda, M. Ayama両氏による論文が受賞し、論文奨励賞には李侖珍氏の論文が選定された。全国大会の発表奨励賞が持永愛美氏、若田忠之氏の2名に決定したことが報告され表彰された。さらにAIC2015のロゴデザインの紹介と受賞者荒木紀久子氏の表彰が行われた。受賞論文等については別項で紹介されているので、参照して頂きたい。

今回の全国大会では、国際シンポジウム、国際コンファレンスを始めとして、デザイン発表やショートプレゼンテーションなど、全国大会の充実をめざして新しい試みが実行された。国際関係では京都でのキックオフをアジア色彩学会の活動につなげていく努力が必要になるだろう。また、全国大会における研究発表の新しい形については、検討を重ねてより良いものにして行くことが望まれる。今回、幅広い領域から多数の研究発表がなされたことは日本色彩学会のポテンシャルを示すものであり、議論の出発点として記しておきたいと思う。



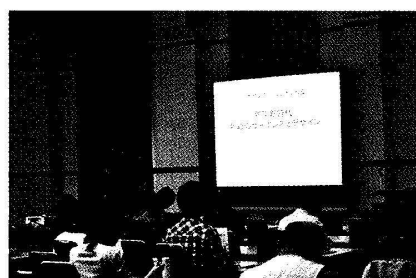
冷泉邸見学会



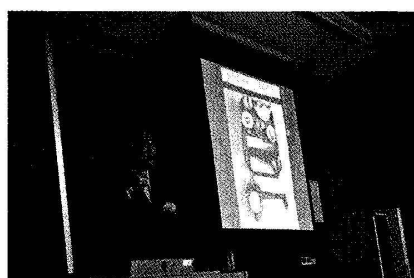
ポスター発表



国際シンポジウム



照明新時代シンポジウム



特別講演：冷泉為人氏



国際コンファレンス



口頭発表



懇親会



懇親会(テラス)